



麦づくり情報(No.1)

1. 麦類の生育概況 (農試作況 1月18日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	11/30	14.0	494	4.5	[気象] 11月20日～1月17日まで ◆平均気温…1.2℃高い ◆日照時間…長い(平年比109%) 12月第3～5半旬は少ない(平年比33%) ◆降水量…少ない(平年比36%) [生育] ◆出芽期 11/20「シロガネコムギ」は1日早い。 12/8「シロガネコムギ」は8日早い。 12/1大麦は7～8日早い。12/8大麦は10～11日早い。 ◆草丈 11/20「シロガネコムギ」はやや低い。その他は高い。 ◆茎数 共通して多い。 ◆葉齢 11/20「シロガネコムギ」は平年並み。その他は進んでいる。 ◆幼穂長及び節間長 11/20「シロガネコムギ」 幼穂長0.8mm、節間長4.1mm
		平年	12/1	14.6	437	4.6	
		平年比(差)	-1	96	113	-0.1	
	12/8	本年	12/20	10.4	209	2.9	
	平年	12/27	9.3	165	2.4		
	平年比(差)	-7	112	127	+0.5		
サチホゴールデン	12/1	本年	12/12	12.0	538	4.1	
		3か年平均	12/20	9.6	270	2.8	
	平年比(差)	-8	125	199	+1.3		
	12/8	本年	12/20	11.5	378	2.7	
	平年	12/30	8.4	203	2.1		
	平年比(差)	-10	137	186	+0.6		
はるか二条	12/1	本年	12/12	11.4	523	3.9	
		3か年平均	12/19	7.8	303	2.6	
	平年比(差)	-7	146	173	+1.3		
	12/8	本年	12/20	11.7	310	2.5	
	6か年平均	12/31	7.9	214	1.8		
	平年比(差)	-11	148	145	+0.7		

(現地の生育状況)

- ・11月中旬～12月上旬頃は、降水量が少なく、圃場が乾燥しており碎土良好な圃場が多かった。
- ・小麦は11月3半旬頃から播種が始まり、11月末にはほぼ播種作業は終了した。
大麦については11月4半旬頃から播種が始まり、12月上旬頃にはほとんどの地域で播種作業は終了した。
- ・11月中下旬に播種された小麦は、一部で乾燥による出芽遅延もみられたが、出芽後は天候に恵まれ順調に生育し、現在4～5葉期となっている。
12月上旬に播種された大麦は、播種後の気温も高く推移し、現在3～5葉期となっている。
- ・11月中旬播種の小麦圃場で、一部ヤギシロトビムシの被害が発生している。
- ・カモによる食害が各地で確認されている。特に、大きな河川やクワ付の圃場で被害が大きい。

2. 今後の管理

○追肥

- ・地域の暦に記載された基準量を施用する。
- ・施用時期の目安は、本葉3～4葉期頃。

- ・12月上旬播種の小麦・大麦は、施用時期を迎えている。11月中下旬播種で施用していない圃場では、速やかに施用する。
- ・肥効を高めるため、施用後に土入れを実施することが望ましい。

○麦踏み・土入れ

<踏圧(麦踏み)>

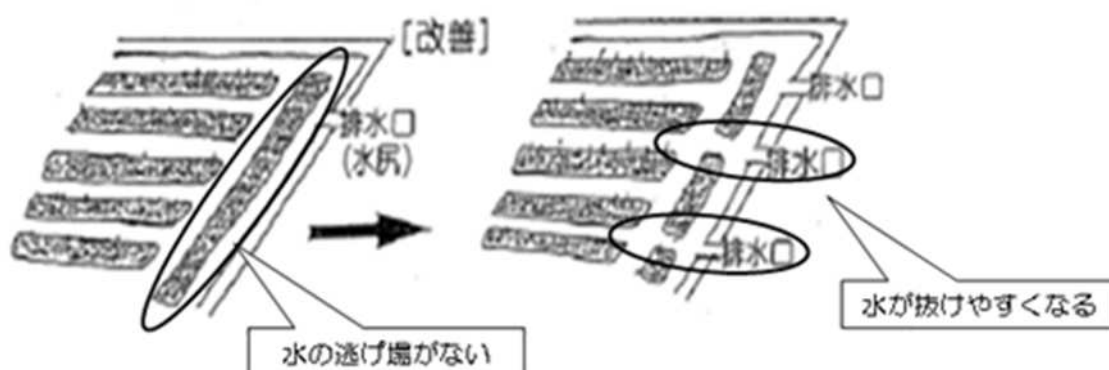
- ・3葉期以降に実施する。ただし、圃場の土壌水分が高い場合、土が締まり湿害を助長するため、必ず乾いた状態で行う。出芽が遅れた圃場では、生育を確認してから開始する。
- ・早期茎立ちの抑制や、出穂の揃いをよくする効果があるため、条件が良いときに3~4回程度実施する。
- ・近年、乾燥状態が続いている時に短い間隔で踏圧を行ったことで、反対に生育抑制している圃場が見受けられるため、麦の生育の回復を待つて実施するようにする。

<土入れ>

- ・5葉期以降に雑草防除と排水対策も兼ねて圃場の条件をみながら計画的に実施する。出芽が遅れた圃場では、生育を確認してから開始する。
- ・土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
- ・肥効を高めるため、追肥後に行うと効果的である。

○排水対策

- ・生育期間中の土壌水分が根の張りに大きく影響する。今後は、降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、土入れ後は、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないよう管理する。



○雑草対策

- ・一部の圃場で1年生広葉雑草を中心に雑草(ヤエムグラ、キンポウゲ類、アメリカフウコ、ミチヤナギなど)の発生が目立ってきている。現在使用できる生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸さないよう早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み:麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ:除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノテトウ カノコグサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメノテトウ5葉期まで) (カノコグサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・カノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤムグラ、カスノイトウへの効果は劣る
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	・ミヤギ、カスノイトウ、ミノスマ等への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤムグラ優先圃場で使用

※以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける。



ヤムグラ



アメリカカフウロ



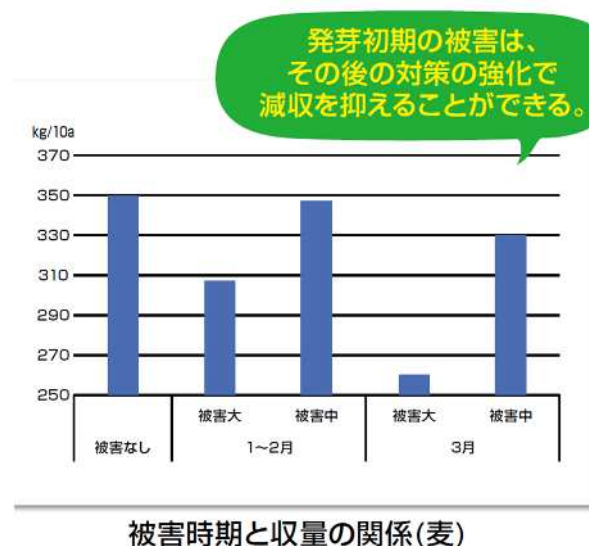
キンポウゲ

○鳥獣害対策 (カモ)

本年もカモによる食害が各地で多く見られる。発生初期の被害は、その後の対策強化で減収を抑えることができるため、特性を把握し、根気強く対策を実施する。

【特性】

- ・鳥類は持久力がなく、エサ場に対する執着が強い特性がある。
- ・「賢い」「しつこい」「行動範囲が広い」ことから、単なる「こけおどし」では、長期的な被害低減は困難。



被害時期と収量の関係(麦)

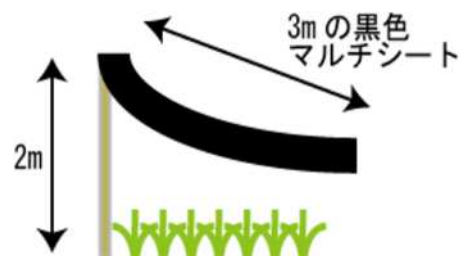
【対策のポイント】

- ・カモにとって居心地が悪い環境を作る。
- ・カモの生態(行動)を変える。
(カモの滞在時間を短くさせる、新たな飛来カモに農作物(麦)を食べさせないようにする)

【具体的な対策事例】

1 吹き流しの設置

- ・2mの支柱に幅1m、長さ3mのマルチシート等を
5~50本/10a設置する。数が多いほど効果が高まる。
- ・カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。



麦圃場での吹き流し設置



カモによる食害

2 ネット等の活用

- ・水路側にネットを設置してカモの侵入防止を図る。
- ・小水路に海苔網等を張るなどし、カモの水路への定着を阻止する。



侵入口である水路側へネットを設置

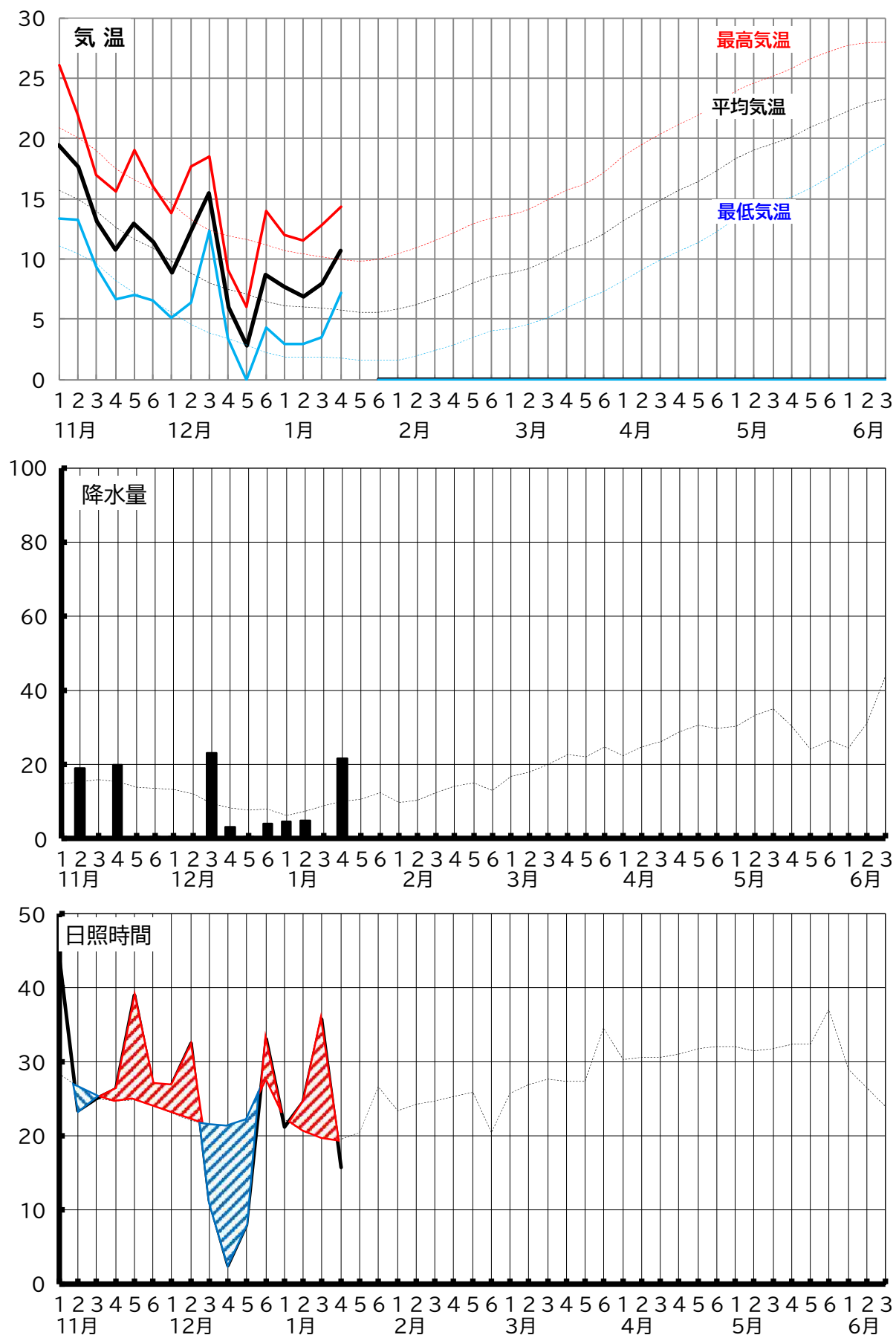
3 地域で麦の播種時期を揃える

- ・周辺の圃場と比較して、極端に早播きであったり、遅播きとなった場合に被害を受けやすくなる傾向があるので、地域で作期をある程度統一することも必要である。

令和6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値